

2011年 年頭挨拶

主イエス・キリストからの恵みと平和が、新しい年も皆様の上に豊かにありますように！

【二年間の取り組みに感謝】

福岡教区民は二年間「司祭召命の育成」を最優先課題として全力で取り組みました。その自覚と意識は大きく変容しました。まさに、この自覚と意識が教区を動かす原動力になります。その成果はこれから必ず実りとなって現れるはずで、全教区民のご尽力に心から敬意と感謝を申し上げます。

【二年間の総括－司祭団】

昨年は、『司祭召命の特効薬が、現場で活躍している司祭自身の輝きと魅力の中にあることを自覚し、司祭が自分の使命と役割に誠実に向かい、司祭らしい生活と役務のあり方に前向きに取り組み、自分の司祭職のアイデンティティを深め、高め、広げ、豊かにし、司祭としての専門的な資質を向上させること』を目指しました。その具体的な取り組みとして、「司祭の老後の家」の建設が始まりました。同時に、司祭の健康管理のための医療・食事・休暇・経済などの制度の検討も着手しました。司祭の役務としての教区組織（役務担当）も見直しているところです。また司祭の生涯養成コースも開始されます。更に、叙階数年の若手司祭の養成プログラムも長崎教会管区レベルで検討に入りました。そして、何よりも神学生養成と司祭召命発掘のために「司祭召命部会」の主導によって様々な取り組みがなされました。これからも、このような取り組みが継続されることによって、司祭が喜びと輝きの中で司祭職を生きて下さることを願っています。それが司祭召命の肥沃な苗床につながると確信しているからです。

【二年間の総括－信徒・修道者】

信徒も修道者もそれぞれ派遣された場所や役割の中で、召命育成のために様々な事柄に誠心誠意取り組んで下さいました。その具体的な取り組みは枚挙に暇がない程です。他方、そのための十分な熱意はありながら、何から手を着ければ良いのか戸惑いと困難を感じていたのも正直なところかも知れません。しかし、その戸惑いと困難は、実は、何に取り組んでもいずれも召命につながっていることの裏返しです。青少年の信仰養成、家庭の聖化、典礼の涵養と美化、福祉活動や社会奉仕など、これら総てが「召命の育成」につながります。つまり、大切なことは、どんな事柄でも構いませんが、その取り組みが一年や二年で終わるのではなく、継続して恒常的に続けられることです。とりわけ福岡教区にとって「司祭召命の育成」が緊急かつ重大な課題であることに変わりはありません。今後も引き続きこの課題に取り組んでまいりましょう。

【今年の目標】

新しい年の福岡教区の優先課題は、既に先月の教区報で紹介された通り、『**救いの秘儀を**①**知り**（信仰生涯学習）、②**追体験**（典礼祭儀の充実）、③**生き**（家庭と社会生活での実践）、④**伝える**（福音化）』です。このテーマはキリスト信者としての本来の営みであり、信仰の真髄です。しかも、この4つの要素がバランス良く組み込まれることが大事であり、その4つを常に念頭に置きながら、その中でも、今年は最初の『キリストの救いの秘儀を①知る』

ということに焦点を絞りたいと思います。私たちは知らないものや分からないものに心を惹かれませんか、望むことも求めることもできません。神様が私たちに示し、係わって下さる「救いの秘儀」を生涯学び続けることがどれ程大切であるかは誰もが良く自覚しています。そのための情報や資料も沢山あります。しかし、日常の煩雑さに追い回されて、なかなか実践できないというのが私たちの現状でしょう。今年はその現状を打破するための第一歩を踏み出して、学ぶ機会をできるだけ多く持つように心掛けたいと思います。各小教区で、全員が参加するような「学ぶ機会」を工夫して実践して下さい。聖書講座や研修会や講演会でも構いませんし、クリシリオやマリッジ・エンカウンターなどの伝統的な養成プログラムへの参加も奨励します。しかし、出来るだけ小教区的全員が参加し、全体のレベルと平均を向上させるような取り組みを考えてみて下さい。日曜日のミサ聖祭の前後に、聖書か要理書などを読み続けるなど、それぞれの教会で何か継続可能な取り組みを考案し実践して下さい。同時に、各家庭で出来る「学び」も心掛けて下さい。日本の司教団が出版した『カトリック教会の教え』という要理書を個人か家族一緒に読み続けることもお勧めします。

「救いの秘儀」を学ぶ私たちの姿勢が変化するなら、典礼が充実するはずで、典礼に積極的に、意識的に、行動的に参加するようになると、家庭生活と社会生活が生き生きとしたものに変化します。その延長線上で信仰が周囲に伝わり、社会の福音化が実現します。この一年間、「神の教えを学んでいますか？」と自問しながら、自信を持って「はい」と応える『**信仰生涯学習・元年**』にしたいと思います。

更に、司祭評議会から『キリスト者の家庭の現実に向き合う』ことも今年の課題として強く勧められました。なぜなら、一般社会では家庭の仕組みが崩壊し始めているからです。離婚の増加、若い男女の同居や同棲など、家庭という枠の本質が軽視され見失われつつあります。このような社会の一般的な傾向と様相は、キリスト者の家庭においても例外ではなく、相対主義や曖昧な道德観に侵害されて脆くなりつつあります。このような現実の中で、親は子どもへの信仰教育の責任を果たせるのか？ どのような条件と方法で子どもへの信仰伝達が可能なのか？ などの疑問に向き合う必要に迫られています。家庭の実態と現状を把握するためにも、可能な限り、主任司祭は小教区内の「家庭訪問」に挑戦してみてください。具体的な家庭の状況把握から、生きた信仰伝達のヒントも示唆されると思います。

【最後に】

今年一年間、教区民が一丸となって『キリストの救いの秘儀を学ぶ』ことと『キリスト者の家庭の現実に向き合う』ことに取り組んでいきたいと思っています。そして、来る11月23日(水)「勤労感謝の日」を「教区の日」として、全教区民が司教座聖堂(大名町教会)に集まり、各教会での一年間の取り組みの総括と報告を実施することにします。

聖母マリアは日常生活という平凡さの中で、救いの営みを学び、黙想し、それを自分のものにしました。私たちの母である聖母マリアのお取り次ぎを通して、「救いの秘儀の核心」に近づくことが出来るように励みましょう。

カトリック福岡教区司教



ドミニコ宮原良治